

令和5年度第6回 恵那市介護保険事業計画策定委員会議事録

I 日時 令和6年2月19日（月）午後2時40分～午後3時30分

II 場所 恵那市消防防災センター 3階 防災研修室

III 審議委員 長谷川核三会長、
山田忠委員、大木八重子委員、鈴木裕子委員、
上野たき子委員、松原淑明委員、西尾由香委員、
山本徳二委員、野田充委員、島崎太郎委員、
水野修宏委員、鈴木隆文委員、坪井弥栄子委員、
三宅弘文委員
(欠席) 篠原勝彦副会長、前野禎委員、鈴木弘二委員、
勝由美子委員

IV 傍聴者 4名

V 次第

1. 開会

2. 議事

(1) 第9期恵那市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について

3. その他

4. 閉会

VI 議事録

1. 開会

■会長

恵那市地域密着型サービス運営委員会を閉会し、引き続き恵那市介護保険事業計画策定委員会を開会する。

2. 議事（進行：会長）

(1) 第9期恵那市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について

[事務局説明]

■会長

質問、意見を求める。

■委員

在宅サービスについて。独居高齢者が救急車で病院に行く場合、付き添いは必要だと思うが、誰が同乗するのか。そういったサービスが市にあるか。ある地域では民生委員が同乗するとも聞いたが、恵那市はどうしてい

るのか。

また、退院後の対応はどのようなものか。遠方親族を呼ぶしかないのか、それとも独自のサービスなどがあるのか。

■事務局

救急車の場合、緊急の場合は一人で乗ることもあるかと思う。

また、地域支援事業として緊急通報システムという制度もある。

■委員

そういったシステムがあることをご本人も遠方の家族も知らない。私も知らなかった。

■事務局

独居高齢者が搬送される際、身寄りがない場合は、地域包括支援センターに連絡が入ることもある。入院した際も、本人の意思表示が難しい場合等は同様に連絡が入ることもある。

そうした中で、民生委員が連絡先を把握している場合などは市からでも連絡が取れることもある。

■委員

介護のために身内の方が帰ってこないといけないのか、何かサービスが保険事業であるのか。

■事務局

サービスとしては特に無いが、市としては病院と連携を取りながら進めることもある。

■委員

身内の方が仕事を辞め帰ってこなければならぬ状況にはならないか。

■事務局

行政としての直接的な支援ではないが、近所付き合いの中での緊急時の支援ということもある。

■委員

私も人から直接聞かれたので、そういった話をした。恵那は人がいいから何とかみんなでやってくさるだろうと答えた。

しかし、ヘルパーをすぐ頼むなどの保険事業として、支援に結びつけることなどはないのか。全く身寄りがない場合は何らかの措置があると思うが、身内がいた場合は仕事を辞めて帰ってきてもらうことになるのか。

■事務局

仕事を辞めてまでとは言えないが、一時的に何らかの意思表示をしていただきながら良い方法を一緒に考えていくことになる。有料ヘルパーなどがあれば、来るまでの間つなげないか、などを相談することになる。

■委員

そういう方法を家族の方に情報提供してもらえるとありがたい。私は要支援の方の支援に入っているのだが、ケアマネジャーが話をしてくれ

るといいと思った。

■事務局

ケアマネジャーがいればそのあたりは相談できると思う。

併せて補足する。救急車の話は誰かがいなくても乗せられる。救急隊が症状を確認して、搬送が必要な際にはそのように対応していると思う。

例えば49ページにあるように、いざという時の高齢者福祉サービスの提供をこの計画に位置付けている。

安心お守りキットの設置事業は、特に独居高齢者が急変した際に何も情報がないことを避けるため、事前に服薬や緊急連絡先の情報を作り、特定の場所に入れておく。それを消防署と共有し、何かあった際に必要な情報を確認できるようにするためのものだ。

緊急通報システム設置事業は、心臓系に病気を抱えている方がボタンを押せば消防署に連絡がいくような仕組みになっている。事前に登録し許可された方のみになるが、費用負担なしで仕組みができていたので周知を図っていききたい。

委員がおっしゃったような入院してからの公的制度については、どの自治体もないと思う。まず症状を確認し、この先どうするかについて関係者とケース会議を開くことになる。ヘルパーを利用し在宅復帰するのか、施設の次のところを確保するのかなど、次の段階として議論することになる。

病院での処置の次のステップとして、包括や高齢福祉の職員を入れながら介護サービスのケアマネジャーを入れながらその人に合ったケースを考えていく。よろしく願います。

■委員

64ページの地域密着型介護サービスの認知症対応型通所介護が「18人以下」となっているが、「12人以下」ではないか。

■事務局

「12人以下」で訂正する。

■会長

では、議事の承認を求める。承認の方は挙手をお願いする。

[全委員挙手]

全員一致で承認とする。

3. その他

■事務局

計画案を承認いただき事務局として感謝する。今後の流れとしては、内部手続きを経て正式に計画として決定する。その後、市議会をはじめ、市民にも広報等で周知していく。

議事は以上となるが、これまで計画について1年間通してご議論いた

だったので、委員の皆様より一言ずつ頂戴したい。

■委員

この手順で変更されているということを初めて理解した。こういう組織があることも知らなかった。

■委員

私も初めて知った。独居高齢者は手厚くしていただいているが、高齢者のみの世帯については民生委員の訪問なども聞かない。そのあたりがどうかと感じた。

■委員

私も委員会があることを初めて知り、たくさんの議論や準備を重ね、市役所もお疲れ様だと思いながら勉強になった。

母が介護認定を受けており、参加できてよかったと感じる。せっかくだがいい事業があるのにPRがうまくできていないと感じる。ごみの集め方が全戸配布されるように、冊子の形で毎年、あるいは3年に一度でも良いのでこの事業があるということを周知できればいい。

いつ介護認定すればいいかも市民は分からないので、「これくらいになると相談すると良い」なども分かると良い。

■委員

訪問していると、本人も最後は施設に入らないといけないと覚悟している。その時に合う施設があるはずだが、私も以前は相談員をしていて様子も分かったが今は分からない。パンフレットや一覧表、価格なども含めて何か市で作ってもらえると良いと思う。

■委員

社会福祉協議会として思うことがある。計画には載らない話だと思うが、今ヘルパーが徐々に減っている。ヘルパーの養成をすれば若い方でもヘルパー業務はできる。ぜひ市の力を借り、助成金を出していただく形が取ればと切にお願いしたい。厚生労働省は居宅介護と言いながら少し単価を下げるような形をとっているが、施設介護よりは居宅介護と、特色のあることになると思うのでぜひお力添えをお願いしたい。

■委員

介護保険料が月額 6,050 円というのはショックだ。すごく大きいと思う。地域支援事業もいろいろあるが、ケアマネジャーは勉強不足だ。

そういったものをケアマネジャーがもっと勉強して、地域にこういうサービスがあることを理解して紹介すると良い。

介護保険のサービスを全く使わないケアプランもありだと思う。介護保険を使わなくてもみんなが安心して暮らせるまちづくりができればよいと思うし勉強の機会を作っていきたいと思う。

■委員

令和6～8年度の3年間は介護保険にとって重要な3年間だと認識し

ている。2025 年は来年なので、せっかく素晴らしい計画ができたので事業者も行政と協力しながら高齢者に優しい恵那市を目指していきたい。

■委員

今年度からこの委員会に参加し、どんなことをされているのか見ながら参加した。市役所の方々がものすごい数の計画を一生懸命作っているのを拝見し、頭が下がる思いだ。

■委員

計画案ができ、恵那市と連携し事業計画に盛り込んできちんとした運営に努めてまいりたい。特別養護老人ホームの位置づけも考えながら一生懸命努めたい。

■委員

介護保険料が上がって高齢者の所得が厳しいこともあるが、働く人の給料を上げないと人がいなくなる点で矛盾を感じている。いいサービスをするにはお金もかかり、どこで折り合いをつけるか悩んでいる。

以前はいろんなボランティアが入って施設全体がにぎやかだったと聞いているが、感染症が始まってから関係者を施設内に入れることはリスクが高く、利用者は部屋の中に閉じ込められたままという状態が3、4年続いている。どうすればいいか考えているが、人が死んでしまうと責任も重いので感染対策はやらざるを得ないが、収束に近づいていることを踏まえると元の通り開かれた施設づくりが必要だ。

財源のことや人手不足、人とのつながりの希薄さを思うと、もう少し皆の使う場所だという意識が高まればよいと感じた。

■委員

シルバー人材センターから参加した。高齢者が増えていくことを考えると、まずは高齢者が元気に暮らす、基本目標の高齢者がいきいきと元気に暮らすことが第一歩だと思う。

シルバーでも仕事をしていただいているが、元気になるために仕事をするのではなく、仕事をしているから元気でいられるのだという、気楽な考え方が大事だ。

ひと昔前は70歳を過ぎるとまだ仕事をしているのかと言われ、お金以上に仕事を楽しんでしていても少し気まずかったが、世の中も変わり仕事を楽しんでする方が増えた。

今のシルバーの平均年齢は75歳であり、80歳を超えても仕事をしている方は好きだからやっているとおっしゃる。ボランティア活動を含めて全体的に、元気に気楽にやろうという雰囲気をもっと出ると良いと思う。

我々も仕事を含めて互助活動で旅行なども楽しんでいるが、とにかく気楽に参加できる社会をもっと助成して皆が気楽な70代80代になると良いと思う。

■委員

今年から参加させていただき、毎回発言させていただき感謝している。内容の濃い計画ができたので、どう実行するかが大事だと思う。

先ほど意見のあった緊急時の対応について、自分のところでアンケートをとっても、一番多いのが緊急時の連絡についてであった。都会と田舎で意識が違うが、三郷であれば自治会長、組長に連絡をすることも回答にあった。隣近所の連絡を密にすると安全だと思う。天候不順でいきいき教室の利用者も体調不良の方が増えた。一週間寝ていても次の日に用事があれば前日に元気になる方もいる。今年 100 歳になる方がいるが生きがいはいきいき教室だと言ってくれる。そういう方をたくさん作ることが目標だ。

もう一つ、無理だと思うが、願いがある。いきいき教室の利用者の内容に余裕を持たせてほしい。たまたま肩が痛くて要支援になり、リハビリに通っている方が市の認定から外され、実費をもらうように言われた。認定を受けずに整形に通って払うのか、いきいき教室を使って過ごすのか。一か所だけの傷みのために認定が外されてしまうのは納得がいかない。介護保険を使うと一つしか使えないので、リハビリかいきいき教室なのか。これくらいのことなら介護保険の中でもいいと感じる。これからどんどんそういう方も出てくると思う。リハビリを受けるだけの所へ行くのと、作品作りや交流を含めた時間を大事にするのか、その辺も考えていただけるとありがたい。

■委員

障がい者も高齢になってきて、介護保険もいろいろ使うので、ご指導をお願いする。

■会長

さまざまな貴重な意見に感謝する。

委員のようなおせっかいの方が恵那市にたくさんいれば介護保険もなくてもよいのだろう。皆さんが一生懸命ボランティア活動をされているおかげだと思う。

そこに追加して恵那市の税金を使った資金を投入できればと思う。長時間の議論に感謝する。

■事務局

たくさん意見をいただいた中、一部回答する。

助け合い、支え合いの仕組みについて。地域を回ると、インフォーマル、介護サービスだけではない部分での必要性を求められている時代だ。ボランティア精神も難しい時代だというのもよく聞く。自主財源を確保しながら活動されているところは立派だが、市で補助制度のような仕組みを検討したいとずっと思っている。4月から重層的支援体制整備事業がスタートする。これまでの高齢者福祉、社会福祉、子育て支援のような縦

割りではなく、横軸に捉えるような、ひきこもり世帯の問題や8050問題へのアプローチがスタートする。この中で何か制度ができないか模索中だ。まずは組織体制をしっかりし、窓口の統一を考えるとところに重点を置いている。走りながら考えていくことになるが、お知恵をいただきたい。

訪問理美容の話を紹介したが、恵那市独自の制度であり、隣の中津川市ではやっていない。お店に頑張っている方は4,000円程度かかり、結果ではあるが行けなくなった人は1,500円で済んでしまう。材料の持ち出しや出張費等、余分にかかる経費を市の制度として応援すべきだと議論したが、大きく金額を変えるにも使う方への影響が大きいため激変緩和で500円値上げさせていただくことになった。事業者からも地域貢献であり、採算性は別だと言われて協力いただいていたが、自身の高齢化や物価高騰の折で継続が難しいこともあり、今回委員の皆さんからご意見をいただいた。

また、老々介護の話があった。12ページにあるように全世帯約2万世帯のうち高齢者世帯は6,877世帯ある。高齢者単独世帯は3,778世帯、高齢者のみ世帯は3,099世帯である。高齢者のみの世帯にサービスが少ないことについては我々も非常に大きな課題として受け止めている。まずは单身の方に手立てをする順番で進めている。高齢者のみ世帯もいずれは単身世帯に移るので、このあたりも見定めながら考えていく。

緊急案件の話では、別荘地の購入で田舎に住まわれるケースがある。夫婦で過ごしているうちは良いが片方が離脱すると残った方が地域との付き合いもなくどうしようもなくなる事案も包括に寄せられている。住みやすい恵那市ということたくさんの方にお越しいただく一方で、そういった事案があるということも担当の話題になっている。

PR、事業所一覧については検討していく。分かりやすいものを提案していきたい。

ヘルパーの確保については私どもも承知している。この4月から、介護職員初任者研修、昔で言うヘルパー2級をなるべくお金のかからないように受講していただく方向で考えている。4、5月の広報で周知していくので、ぜひ広めていただきたい。

恵那市単独で上乘せをしたらどうかという話はいろいろと状況があるため、考えさせていただきたい。委員からも意見が出たが、サービスも必要だが保険料が上がるということで裏腹になっていくため、よく検討していく。事業所の運営を考える一方で介護保険料が上がる、そのバランスを考えなければならない。

いきいき教室については具体的なところを相談してまいりたい。

色々申し上げたが、本日をもって9期計画の案について承認いただいた。委員の皆様には引き続き令和6年度もお世話になる。この計画がしっかり執行できているかご意見をいただきたい。

恵那市の人口は右肩下がりでどんどん減ってきている。しかし75歳以上に限ると令和12年くらいまで増える見込み値になっている。

介護を必要とする方も増えるし、支える年代は減っている。非常に高齢福祉について難しいかじ取りを求められる。

今回いただいた計画をもとに、高齢者福祉に関わるプロの皆様は位置づけられた施策を着実に進められるように努めていただきたい。皆様にも引き続きご意見をいただきながら一緒に取り組んでまいりたい。

4. 閉会

■医療福祉部長

委員の皆様に感謝申し上げます。

会長におかれては、6回の会議のうち1回は書面開催となったが、5回にわたりスムーズな進行をいただいた。

初回会議の冒頭で、18人の委員の皆さんのご意見をできる限り9期の計画に反映すると申し上げた。特に被保険者代表である公募委員のご自身の考えについて、9期の中に反映できただろうか。私は入っていると認識している。今後、進行管理でよく見ていただきたい。

他の委員の皆様にも会長の配慮の中、一人ずつのご意見を賜り、それについての回答をさせていただいた。

100年後には日本の人口は5,000万人を割り、生まれる赤ちゃんは約122,000人ということだ。社会構造は、今は超高齢化というキーワードで進むのであろうが、50年後くらいにどんな日本にいるのか、私を含め皆さん想像ができないだろうと思う。

皆さんと一緒に作った恵那市の計画はそのあたりを見据え、少し問題提起ができていると思う。高齢者にやさしい恵那市という素晴らしいキーワードを委員からいただいたが、健康で元気に恵那市で過ごしていただき、何かあった時には介護保険を使ってしっかりその方を支えていくことがキーワードだと思う。

その精度を高めていくことが必要だと感じる。4月からはこの計画の進行管理も行っていたいただき、厳しいご意見を頂ければと思う。

改めて1年間のご協議に感謝申し上げます。

以上で、恵那市介護保険事業計画策定委員会を閉会する。